

Ble 59

Art & Design Center News
2024_04 | 2025_03

02-06P

特集「Like Work から Life Workへ」

<Maison de Zansu> 鈴木知幸
<mmm> / [PRINTED MATTER] mmm Work Shop

07P

ちょっと行ってきました Vol.3
～ラーメンやんぐ～

08-09P

2024年度 Art & Design Center レポート

- PRINTED MATTER
- メンガーのスポンジ展
- 名古屋芸術大学 美術・デザイン領域 教員展
- 新博物誌展2024

10P

Ble COLUMN <神谷思摩> <丹羽優香>

11P

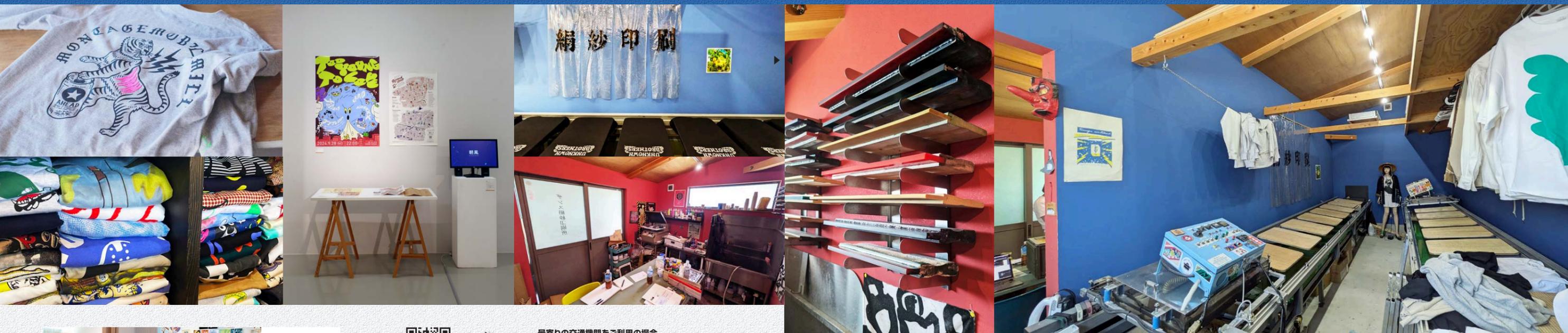
芸術一話 古本いるふ

2025年度 Art & Design Center 展覧会スケジュール

編集後記

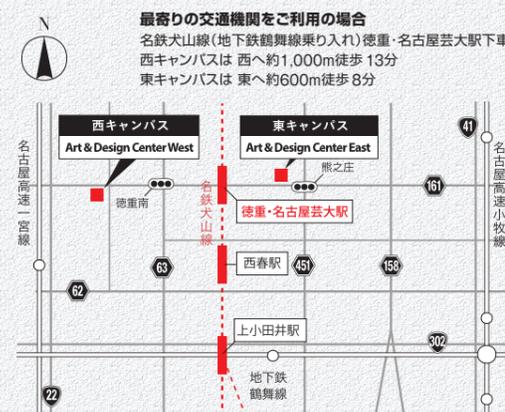
- 魂が宿る、神が宿る…のか、今日も素敵な装飾の枕カバーを模索中です(S.K.)
- 今年は季節が1ヶ月くらいズレている感覚、春は何月になるかな(J.I)
- 1年通して全体的に己の乾燥がやばいのでおすすめの保湿力が高いグッズが知りたいです◎(M.Y)
- 今年度からADセンターのスタッフに加わりました。学生の時とは視点が変わり、色々新鮮に感じています。(Y.N)

名古屋芸術大学 Art & Design Center



NUA ART SHOP
名古屋芸術大学アートショップ

Info
Art & Design Center West内
Open 12:15-18:00 /
木・日曜日定休
※お支払い方法は現金のみとなります



名古屋芸術大学 Art & Design Center
〒481-8535 愛知県北名古屋市徳重西沼65番地 TEL [0568] 24-2897 FAX [0568] 48-0173

Ble Vol.59 発行日 2025年2月13日
編集・発行 名古屋芸術大学アート&デザインセンター
〒481-8535 愛知県北名古屋市徳重西沼65番地 E-mail adc@nua.ac.jp URL http://www.nua.ac.jp
2025 Printed in Japan © Art & Design Center, Nagoya University of the Arts
デザイン/印刷 サンメッセ株式会社



特集

Like Work から Life Work へ

「作家に寄り添う刷り師に」(Maison de Zansu)

粋な暖簾がかかった緑の小さなプレハブ。入り口に溢れかえったダンボールの奥には、赤と青の壁で彩られた秘密基地のようなシルクスクリーン工房 Maison de Zansuがある。綺麗に畳まれたTシャツ、棚に置かれた小さな日本人形、壁に掛けられたさまざまなアート。工房だけにとどまらない空間は、コンパクトでありながらもたくさんの作家たちの版を保管している。

名古屋芸術大学の卒業生でもあり、2024年度企画展「PRINTED MATTER」のワークショップにmmmのメンバーとして参加いただいた(Maison de Zansu)鈴木知幸さんにご自身の制作と活動についてお話を伺いました。



>>Maison de Zansu立ち上げまでの経緯を教えてください

愛知県岡崎市に工房を構えたのは3年前です。大学を卒業後は学生時代からアルバイトをしていたアパレルショップで販売員として就職して13年くらい働いていました。その時にオリジナルのグッズを作ったり企画をしたり、、、グラフィックを作る際にプリントをしているお客さんの工場に行かせてもらって初めてシルクスクリーンに触れました。

>>大学時代はシルクスクリーンはやられたことはなかったんですか？

はい、全くやったことがありませんでした！実は独学で、最初は「Tシャツくん」というキットから始めました。(笑)店の営業中に商品の売れないTシャツにプリントしたら売れるんじゃないかな？って。その時は、方法をネットで調べて、水がいるとか機械がいるとか分からずまずやってみました。やっていくうちにもっと大きいものも作りたいと思い立って露光機(版を作る際に使用するUVライトボックス)を作ったら、一旦満足してしばらくやらなかったのですが、子どもが生まれたタイミングで子ども用の服を作ろうと、露光機を作ったのを思い出してプリントを再開しました。



>>どのタイミングで今の仕事を始められたんですか？

ずっと続けていたアパレルから1度別の職種の仕事に転職したのですが、そこでのストレスを仕事終わりや休日にシルクスクリーンを刷る事で発散させていて、「副業のが本業より稼げればいいんでしょ」という反骨精神がエネルギー源になってひたすらシルクスクリーンを追求して、ちゃんとしたプリントをお客さんに提供できれば、お金にもなるし楽しいし！服屋をやっていたときの知り合いの人からオリジナルのユニフォームや制服を作りたいなど依頼が増えてコロナ前(2020年)に、奥さんを説得して当時の仕事をやめて立ち上げました。その後すぐにコロナでした。(笑)

>>コロナ禍での影響はありませんでしたか？

コロナは意外と大きく影響しなくて、周りに独立して仕事をしている人がたくさんいて羨ましいと思っていた時で、そんな仲間たちがコロナの時に社会に頼るんじゃなくて、クラウドファンディングや、お店のグッズをオリジナルで作るとか色々自分自身で動いている人が多くて、いろいろ仕事をもらえてちょうどいいタイミングだったかもしれないです。

>>Maison de Zansuではどういったものを作られているんですか？

主にはデザイン画があって、それをTシャツにプリントしていくんですが、普通のプリント屋さんみたいにデザインを入稿して完成ではなくて、こんな色が出したいとか、いろんな加工をさせていただき、アクリルや紙に印刷させていただき、いろいろ作家さんたちと話をしながら試行錯誤して納得のいくものを刷っています。

>>ちなみにMaison de Zansuという名前はどこから？

トニー谷という芸人さんがいて、ちょっと悪役的なニヒルな昭和の芸人さんで、「そろばん」をたたきながらネタをするんだけど、その演奏がすごく！学生時代にCD借りてみんなで一晩中間していたくらいすごく好きなコメディアンで、その人が言葉の語尾に「ざんす」ってつけるんです。その「ざんす」です。(笑)



Creator's voice

しんご

しんご
Profile

小さい頃から絵を描くことが好きで、その延長でずっとものづくりを続けて今に至る。デザインの仕事をしたり、自分の作品を作ったり、遊びを大切にしながらいろんなものをつくっています。
zibun100.com
instagram : @1000000cm

ハッシーさん(鈴木知幸さん)とは、いままでプリントをお願いしていた方が産休に入られることになり、代わりにプリントしてくれる方を探している時に、友人に紹介してもらったのが出会いです。

私がつくっているTシャツの中に、インクをのせるのではなく生地の色を抜いて図案を浮かび上がらせる「抜染」という手法でつくっているものがあります。色の抜け具合や仕上がりの生地の質感など、こちらの要望に対してかなりいろんなことを試してください、理想的な仕上がりになるまで付き合ってくださいました。ハッシーさんにプリントしてもらった抜染Tシャツを他のプリント業者さんにも見てもらったことがあるのですが、仕上がりに驚いておられたくらいです！

こちらの投げかけを嫌な顔をせず全て受け止めて、仕上がりで魅せてくれる姿勢にはいつも感動しています。そういう方が近くにいることはとても心強いです。

私はハッシーさんをプリント業者という扱いではなく、ひとりのクリエイターと一緒にものづくりをしているつもりです。

これからも共に楽しいものづくりをしていきたいと思っています。

>> Maison de Zansu 以外で自身が主催されている、岡崎市の康生町にある籠田公園で開催している P.T.A (Park Trade Association) の活動についても教えてください

大学の同級生で、地元も一緒に田口くんと一緒に始めました。田口くんは大学でコースが一緒で、今は岡崎の康生町で古着屋 (FRUITS) をやっています。田口くんから籠田公園がきれいになったからなんかやらん? (2019年7月リニューアル) っていったのが最初でした。最初はとりあえず1回何かをやってみようといった感じで、公園の角の方で1日だけのイベントをして今みたいな屋外イベントをやっていなかった時だったので、意外と盛り上がりました! 3回目あたりでコロナ禍になって、マーケットイベントが増えてきたときに「他との差別化が必要だね」とか、「どのイベントいっても同じ作家さんだね」というのを避けた内容を突き詰めることにしました。

出店者さんがまた面白い作家さんを教えてくれたりして、どんどん一般大衆の受けを狙わずに、トンガったイベントを目指しています!

マーケットは飲食店の出店があれば、人は多く来るけど物販が弱くなる、その仕組みを逆にしたいのがP.T.Aで、出店者さんが遊べるようなコンパクトなイベントを目指しています!



P.T.Aイベントの新聞

P.T.A (park.trade.association)
岡崎市籠田公園を縄張りとして、東海地方を中心に全国各地のクリエイターや古着屋、ショップが参加するイベントを開催。2025年3月22日、23日に春のP.T.Aバザーを開催予定。



P.T.Aインスタはコチラ (@park.trade.association)

>>最後に今後の目標を教えてください

今はまず店舗を大きくしたいです! 作家さんに寄り添った作品作りを追求できるような刷り師になりたいです。

ハッシーさん(鈴木知幸さん)とは大学の共通の知人を通して紹介してもらいました。色々話をしていく中で、大学の先輩でもありながら、高校の先輩でもあり、家も歩いて5分ほどと言うことで仲良くしてもらっていました。

P.T.Aは第1回から誘ってもらい参加させてもらっています。その時はまだ作家としてではなく、趣味のけん玉の実演と販売で参加していました。(笑)

その後何度か参加させてもらい、他の作家さん達と交流する中で、自分も作家として出店したい! と思い最近ではフィギュアの展示、販売で作家として参加させてもらっています。mameとして活動していくきっかけにもなったイベントのひとつです。

P.T.Aは主催のハッシーさんも田口さんもどちらも個人的なお二人なので、そんなお二人がお声がけしてくる出店者さん達も同様に超個人的でクセのある人達ばかりで面白いですね。

出店者さんでも、イベントに来てくれるお客さんもみんな個性豊かな方が多いので、色んな情報交換をしたり、クリエイター同士でどんどん仲間が増えていったりと参加者全員で楽しんでいる感じが他のイベントではなかなか味わえないですね。

公園の近所の方や、子供達もたくさん来て、アートに全然興味ない方でも足を運んでくれて興味を持ってくれるのでその点も良いイベントだと思っています。

P.T.Aは出店者もお客さんもみんなが楽しめる最高のイベントです! 地元という事もあるので、長く続いて欲しいです。

Creator's voice



mame Profile



彫刻家として活動しながらフィギュア作家としても活動しています。彫刻とフィギュアのどちらも制作をする事で、互いに新しい表現、カタチを追い求めた制作をしています。



作家の細かな要望に答えるべく、試行錯誤して作りあげてきた成果がより多く作家たちへと繋がっていく。グッズでありながらも、唯一無二の作品を作り上げるような制作スタイルは単に刷るという作業ではなく、刷り師という言葉が相応しい。



(Maison de Zansu)鈴木知幸さんがメンバーとして参加する「mmm」の活動をご紹介します! 3人の異なる技術を組み合わせ、その場、その時でしか生まれない製品を年に数回イベントにて制作。

What's mmm? mmm(montage mobile mill)

異なる技術 (montage) の移動式 (mobile) 工場 (mill) をコンセプトに AND THROUGH DESIGN [デザイン部]、Maison de Zansu [プリント部]、Stitchyard [刺繍部] の3社合意により2023年に愛知県にて設立。デザイン部設計によるグラフィックをプリント部、刺繍部の手により表現しその場で1枚の製品を提供します。



社是

明るい明日の未来のため、私達mmmは最大限のローテク技術を皆様へお届けする事をお約束します。 For a bright tomorrow's future, mmm promises to deliver the best low-technology to everyone.

メンバー紹介



Instagram : @do_thee_boogie

第1工場:

AND THROUGH DESIGN (アンド・スルー・デザイン)
名古屋を拠点に活動するグラフィックデザイナー。2016年より活動開始。ハンドレタリングとイラストでポップかつオルタナティブなデザインを表現するサウスポー。



Instagram : @maison_de_zansu

第2工場:

Maison de Zansu (メゾンでザンス)
愛知県岡崎市を拠点とする小さいシルクスクリーン工場。アーティストやショップのアーバレルグッズをメインにプリントしています。ザンスの屋号はトニー谷より。アイブラユー♥



Instagram : @stitchyard_

第3工場:

stitchyard (スティッチヤード)
岐阜県垂井町の小さな刺繍屋。ショップやデザイナーのオーダー刺繍アイテムを制作。その場で描いた絵や線を刺繍してアイテムを作る刺繍ワークショップも開催。





カスタムオーダーでオリジナルアイテムを制作できるワークショップ。
ATDが書き下ろしたデザインの中から好きなものを選び、好きな場所に
プリントと刺繍で落とし込みます。
こちらで準備した無地のTシャツの中から選ぶか、ご自身で持ち込んだ
服にも落とし込みます。
過去にはスーツ、テント、スケボーなど面白い持ち込みもありました。



2024
5.11 sat. & 12 sun.



Art & Design Center協力企画展
「PRINTED MATTER」
2024年5月8日(水) - 5月20日(月)
12:15-18:00 土日17:00まで
期間中無休/入場無料
●5/11(土), 12(日) 12:15~16:00
mmmによるワークショップ開催

2024年度 Art & Design Center協力企画展 PRINTED MATTER では
mmmによるワークショップを開催
週末の2日間のイベントには、多くの方に参加いただきました

11月と行って来ました◎ // vol.3
2024.11.25

ラーメンやんぐ

今回は静岡県三島市にあるラーメンとオリジナルグッズを販売している「ラーメンやんぐ」へおじゃましました◎

三島駅から徒歩15分、商店街を抜け三嶋大社横、突如現れるポップなカラーとラーメンの看板が目を引く、ガラス張り建物が「ラーメンやんぐ」です。扉を開けると棚に綺麗に並べられたポップでカラフルなオリジナルグッズ、奥にはカフェのような空間でラーメンが食べられます。女性でも気軽に一人で食べられるような店内には、店主の様々なこだわりが至る所にちりばめられ、「生搾りレモンラーメン」、「魔法のラーメン」など他ではあまり見かけないメニューが味わえます。



◎店内

気になるDJブース兼レジスペース。音楽が欠かせない存在なのが店内からもうかがえる！店内でイベントを行うときはラーメン屋さんではなくライブハウスのような楽しい空間になるのも魅力☆

◎グッズ

一番人気のリフレクターはオーナーの高梨さんの飼っているわんちゃん(ぐーやん)がモチーフとなっており、お店のアイコン的な存在でイラストも高梨さんが描いているとのこと！グッズのイラストはお友達のイラストレーターやアーティストも関わって作成されておりどれも手に取りたくなるデザイン性の高いグッズばかり◎



店内にはテーブル席と一段上がってカウンターがあり、自然の光が入る気持ちのいい空間でゆったり食べられるのがすごくいい！カフェのような雰囲気もありラーメンを食べに来たことを忘れそうになる落ち着いた場所に◎

はし袋や紙ナプキンには「やんぐ」の文字がプリントされており使うのがもったいないくらいかわいい！！今回は気になっていた「生搾り醤油レモンラーメン」を注文しました。レモンのさわやかな味がさっぱりとしていて、見た目も綺麗！店頭とイベントとで、提供されるメニューが違うというのを知りいろいろな味を楽しめるのはテンションあがる！

◎ラーメン



ラーメンやんぐとは

2017年に三島市三島町駅近くに開業し、現在の場所には2023年1月に移転。代官山蔦屋書店、BLUE LUG、森道市場に参加するなどイベントにも出店。

店名は高梨さんのお兄さんが営むラーメン屋さん「ろたす」のひらがなと、高梨さんがギターボーカルのを務める伊豆発祥のバンド「ヤング」を掛けあわせて「ラーメンやんぐ」になったそう。県内はもちろん県外からの来店も多く、老若男女問わずお店に訪れておりSNSをきっかけに若いグループや女性同士での来店も多い。

Information



ラーメンやんぐ
〒411-0853
静岡県三島市大社町16-1
11:00~14:00/不定休



Instagram :
@young_mishima



喫茶も不定期で開店(予約制)
Instagram :
@satoe_kissayoung



online :
<https://young.theshop.jp/>





W Report

2024年度 Art & Design Center 協力企画展
「PRINTED MATTER」
2024年5月8日[水]～5月20日[月]
Art & Design Center West

印刷工房にリソグラフが導入されたのが、2020年12月。7色からスタートしたが今は17色に増えている。それ以降、授業を通じてリソグラフの活用が始まったが、当初は授業を受け持つ教員やデザイナーたちが積極的に実験を行ったり作品制作をしていた。そんな様子を見た学生が自分でも実験をしてみる、というサイクルを目にするたびに、クオリティの高い実例を多く見せなければ、という思いが生まれ、印刷表現を集める展覧会の企画が始まった。はじめは気になる印刷表現をしている人をチェックし、身近な人から声をかけていたがリサーチをしているうちに海外のリソスタジオの活動に関心が強まる。リソスタジオに関心を持ったのは、19～20世紀のパリを中心に版画工房で盛んに行われていたアーティストと刷り師とのコラボレーションの形がリソスタジオで受け継がれているように感じたからでもあるのだが、確認しようにも当時はコロナ禍で気軽に訪れる状況でもなかった。

そうしながらも2023年から海外にも出かけることが現実的になり、2024年3月に姉妹校のベルギーの美術大学のラ・カンブルを訪問する機会を得る。その旅程にはラ・カンブルのあるブリュッセルとパリも含まれていた。その直前に

個人旅行でバンコクに行く予定もあったので、インスタグラムで各都市のリソスタジオをチェックし、メッセージを送り訪問してみることにした。

そうやってバンコクではWitti studio、ブリュッセルのFrau Steiner、訪問できなかったけれどアントワープのSO-RI、パリのStudio Fidèleから展覧会の出品の約束が取れた。こうやって展覧会の構成が固まってくる中で、やはり工房という空間での共同(コラボレーションや情報交換)が大切だなと感じ、京都市立芸術大学やバンコクのKMILT、ラ・カンブルの版画やグラフィックデザインコースの授業を中心にしたプロジェクトを加え、展覧会もそういった動きのある空間を目指した。

結果としてFrau Steinerのこの展覧会のためにデザインされた壁紙が鑑賞者を迎え、イヌマル堂とそのコラボレーターたちの工房再現、ラウンジでもイベントとしてワークショップが行われた。見るだけでなく自分たちが学ぶ大学の設備でも出来ることを展覧会を通じて提示できたのではないだろうか。

デザイン領域 イラストレーション/ビジュアルデザインコース 片山 浩



W Report

2024年度 Art & Design Center 企画展
名古屋芸術大学 美術・デザイン領域 教員展
2024年9月19日[木]～10月1日[火]
Art & Design Center West

名芸の美術・デザイン領域の教員39名が自身の作品を出展する「教員展」が、コロナ禍を経て5年ぶりに開催された。普段見ることができない教員たちの「制作者」としての顔を見ることが出来る貴重な機会ということもあり、来場者は通常時よりも多く、学生たちの教員の仕事に対する関心の高さがうかがえた。

展示会場には、絵画、彫刻、版画、工業製品、家具、ポスターなど、多種多様なジャンルの作品がずらりと並んでおり、「教員たちによる作品展」という趣旨を抜きにしても楽しめるものになっていた。もちろん教員としての顔を知っていればもっと面白い。会場にいる学生たちの様子を見ると「あ！これ〇〇先生のだ！」と、初めて知る教員の仕事に驚く様子もちらほら見られた。

今年着任したばかりの私は本展初参加だったので、自己紹介を兼ねて近年

手がけた仕事から、アニメーション、イラスト、デザイン、音楽など、複数のジャンルの仕事をいくつか選んで展示した。

私は名芸出身者であるため、実をいうと学生の頃にもこの会場で何度か展示をしている。当時と違うのは教員という立場での参加という点だが、しかし展示するときの緊張感はいつになってもあまり変わらないものだなと思った。自分の作品を見ている人を見つけると、その様子を速くからこっそり眺め、どう感じているだろうか…と少しドキドキする。けれど、作ったものを見てもらうというのはいつもそうであり、展示会場においては学生も教員もなく、見る側、見られる側、両者の関係は対等だ。私にとっては、制作者として忘れてはいけない緊張感、初心を改めて感じさせてくれる展覧会でもあった。

デザイン領域 メディアコミュニケーションコース 粟屋 賢



W Report

2024年度 Art & Design Center 企画展
「メンガーのスポンジ展」
2024年10月30日[水]～11月18日[月]
Art & Design Center West

本展では、「メンガーのスポンジ」と題したタイトルのもと、2.7268330278次元という非正数を使って、平面以上立体未満という領域およびその形式に新たな切り口を設けること。そしてパフォーマンスやインスタレーションといった一回限りの展示性とは対照的に、ある程度の自立性を内在しつつも、平面からやや拡張、あるいは立体からやや縮小する様々なベクトルで拡張を試みる6つの実践を紹介することをアジェンダとしていました。それが果たして成功しているかどうかは実際に展覧会をご覧になった鑑賞者の方々に委ねるとして、ここでは本展の裏テーマを少しばかり。

そもそもこの展覧会で展示した作品性とは別に、没入的な(四次元的な)インスタレーション作品が与える体験性や鑑賞者への訴求性の高さへの敬意を払いながらも、それを実現することに伴う膨大なコストや会期後に発生する大量の廃棄物を回避したいという思いがありました。本展で扱うような自立性を持つ作品とは詰まるところ、会期以外の時間においても存在することが可能であり、

様々な展示機会に再び登場することができるという耐久性を持っています。その経済的かつ持続可能性が高いフォーマットは、国内における潤沢ではない文化への予算配分や、世界的な環境保全問題が叫ばれる中において、単なる昔ながらの形式とは異なる見方で再認識されても良いのではないのでしょうか。もちろん本展ではいわゆる「絵画」や「彫刻」といった類のものではなく、あくまで2次元+アルファを基調としている作品ばかりですが、目指すは強い展覧会の実施や、没入性の獲得とは異なって、無理のない労働、適正な予算配分、美学的な欲求の実現および質の追求を入れたつも、生命を削り取ってまでそれを追い求めない諦めと潔さのバランスでした。この展覧会に参加しているアーティストだけではなく、キュレーターやデザイナー、インストーラー、その他スタッフが、まるで「メンガーのスポンジ」のごとく体力が限りなくゼロに近づくことなく、なおかつ今後も無理のない制作環境が続くことを願って。

インディペンデント・キュレーター 堤 拓也



E Report

新博物誌展 2024
2024年11月22日[金]～12月4日[水]
Art & Design Center East

フランスの詩人、文筆家ジュール・ルナールに『博物誌』(1896年)という本がある。身近に生きる様々な動植物を、短い文章で書き、本の中に陳列するのというものだ。もともと「博物誌」とは文と絵で構成されるもので、博物学として古代からある。19世紀のこれはルナールの作品であった。

たとえば、題は「蛇」で文章は「長すぎる」の一行だけ。筆一本の線による絵(ビエール・ボナール)がつけられている。(1954年 新潮文庫版、岸田国土 訳)。これを文芸・ライティングコースの3年生に授業で紹介する。「こんなものなんだ?」となる。少し自由になる。それぞれが、いま気になる動植物を見つけて文章を書く。

本学の洋画や日本画、イラストなどの学生に絵を描いてもらう。「文先」である。文章のイメージなどを伝える打ち合わせも授業の中で行う。これが『新博物誌』(2018年～)である。今年度は、卒業生からも絵が寄せられ、編集した本には80作品を収録。13作品が展示された。

文芸・ライティングコースの学生により、本を入稿するための編集作業をパソコンで行った。コースの企画展へつなげていく。短めの収録作品「メダカ」をここに紹介しよう。

そおっとのぞいて見てごらん/右へ左へ/左へ右へ/群れと一緒にゆらゆらと/ほんとうに、のぞけているか?/ほんとうは、のぞかれているのか?/んらごて見ていぞのとっおそ(文: 小澤大鼎 / 絵: 伊藤祥吾)

メダカが泳ぐ池に、緑が映る絵がつけられた。逆さまに一文を書くという遊び心のある文に、反応して嬉しそうな絵になったのではないか。一枚の額縁の中で、互いの自由を譲えあうように見えた。

デザイン領域 文芸・ライティングコース 村田 仁

『夢みまくら』

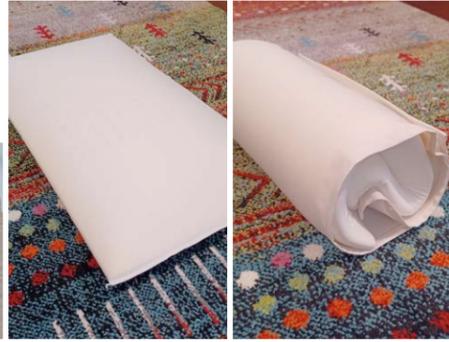
神谷 思摩

ある講座との出会いがあった。冒頭に「春はあけぼの・夏は夜・・・」と四季の様子が歌われているあの清少納言・枕草子の深堀である。時代背景や作者の性格、作者周辺の人物との関係性、いわゆるそういう話からはじまる講座であった。ご存知の方もいらっしゃるかもしれないが、平安時代、紙は貴重なもので、帝はそこに史記(歴史書)を書き写していたのだ。めぐりめぐって、紙の束をもらうことになった清少納言は、その紙の束に、史記ではなく四季を書くという、なんとも粋なことをしたようだ。枕草子とは、枕(=冒頭)部分に四季が書かれた草紙(=紙束)ということのようだ。そもそも枕とは? 枕の歴史に少しふれてみたい。古くに枕は、「魂蔵(たまくら)」や「真座」と言われており、「魂の納まる蔵」「神様(真)が座る場」という意味であった。魂が戻ってくるかもと、死者に高貴な装飾の枕が使われていたのだ。権力者を埋葬する際の枕を検索すると、様々な形態の枕があったことがわかる。石の枕、ヒスイの枕、ビーズの装飾の枕・・・。歴史において枕は、頭を支えるためだけのものではなかったようだ。

また、今も昔も人は枕を頭に夢を見る。皆さんも、導きのような夢をご覧になったことはないだろうか。眠っている間に夢を見るのは、「真座」に宿る神様からのお告げという考え方もあるのだ。枕には神や先祖が宿って夢をみさせてくれているのだろうか。地方には、枕を踏んだり粗末に扱ったりすると、魂が揺れ動き頭痛に悩まされるようになるという言い伝えもあるらしい。枕は知ると意外と興味深いものである。

このような枕への思いも、「枕草子」という本の名に使われた一つなのかもしれない。

ある講座との出会いは、歴史だけでなく夢みる毎日のふしぎを感じるようになった。



芸術一話

ART WORDS FROM THE ART WORDS

34



furuhon iruf



古本いるふ
富山県滑川市瀬羽町1890-1
12:00~18:00 / 月・火曜日定休
古くともどこか新しい「いるふ」本をお届けします
店頭・出張どちらでも本の買入れしています
本の整理、お気軽にご相談ください
展示もたまに開催します
BOOK DAY とやま代表・運営 | 富山県古書籍商組合 理事

ホテルイカが名産の富山県の港町で古本屋「古本いるふ」を営んでいます。元々は愛知県が地元です。現代美術家の父とオーダーメイドの婦人服店を営む母の影響で何かしらの作り手になりたかったのですが、自分が作ったもののクオリティに満足できず、行き詰まりを感じていました。いっそ作り手を諦めて応援できる側になろうと思い、数ある選択肢の中から「本」という道を選択しました。テキストや絵、写真など、本にはたくさんの方が介在しています。本というフォーマットになったものを通して、自分なりのかたちで応援できることをしようと思いに至りました。

名古屋のブックイベントを手伝ったりしているうちに、場を持つ素敵さや楽しさを垣間見て、店を持つのが夢になりました。当時、雑誌や本なんかを見ると新刊書店をはじめするのは金銭面で大変だけど古本屋なら元手があまりかからないのだと思い込み、古本屋いいかも...と思い始めました(いま思えば偏見と勘違いあり)。

そうこうしている内に結婚することになり、『結婚するなら家をあげる』という妻の両親からの誘い文句で2013年に富山へ移住しました。

移住した年に富山でもブックイベントが立ち上がり、手伝いする中で富山の古本屋さんや面白い方々と知り合いました。まわりの方との関係性も築けてきて、お願いして古本屋で手伝いをしはじめ、少しずつ古本屋の仕事を覚えました。自分の手元にある本を売ったりなど、イベント出店もたくさん経験しました。

年齢的にもそろそろお店を始めたいという頃に、ちょうど現在の物件を見つけて、先輩からのアドバイス『タイミングを逃すな! 考えるな! 感じろ!』を胸に、数十年空き家だった元靴屋を、友達と妻に手伝ってもらい、5ヶ月かけてセルフリノベーションし、店舗を開店。今年の5月で丸6年、7年目がスタートしました。現在、ブックイベント「BOOK DAY とやま」の代表もしています。

本は、ありとあらゆるジャンルに関するものがあり、またその時間軸も数百年前から昨日発行されたものまで様々。国や地域性なども含めると、ほぼ無限に近く思えるほど多種多様な本があります。同じ本でも、文庫版、新訳版、装丁違い、限定版、豪華特装版、私家本など、その様相も多岐に渡ります。

古本屋の仕事は、そのなかから次世代につなげていくべき本を選択し、次の読者に届けるのが役割です。本にはどこかに必ずその本を探している人がいるもの。一見無価値に思えるものも、誰かにとっては何物にも代えがたい逸品であることがままあります。本以外にも、はがき、パンフレット、チラシ、ポスターなどの紙モノから、浮世絵などの刷りモノ、古写真や絵画も古本屋の取り扱い領分になります。

果てしない海を航海する気分で、今日もお客さんからの依頼を受けて、本を買い取り、次の方に繋ぐところ。皆様のご来店お待ちしております。



『北澤美術館へ』

丹羽 優香

毎年2回家族で長野県へ行くことが恒例となり、今年の夏も2泊3日信州白馬村で過ごしました。平均気温は行く度に上がっているように感じますが、愛知の気温と比べれば格段に涼しく、山の美しい景色を見たり森でくぐりながら、気持ちのいい環境です。

今回は旅行の合間に諏訪市にある北澤美術館を訪問しました。北澤美術館は諏訪湖の畔に建つエミール・ガレ、ドーム兄弟、ルネ・ラリックなどのガラス工芸と現代日本画を多く所蔵している美術館です。

中学生の頃に一度、北澤美術館へガレを好きな母の提案で訪れたのですが、その頃は作品の魅力がよく解らずあまりピンと来ていませんでした。その後、高校や大学で美術史やガラスの授業を受けアールヌーヴォーの魅力を知ってもう一度北澤美術館に行きたい!と思い、今回再度訪れました。

訪問時に開催されていた企画展は「北澤美術館のガレ」という展覧会です。ガレの様々な作品を中心に、ドーム兄弟やルネ・ラリックの作品も多く展示されており、展示室の正面にはガレの「ひと草ランプ」。鮮やかなオレンジのきのこ笠が怪しく光り、幻想的な雰囲気をもっていました。ガラスという冷たく無機質なイメージの素材が、草花や虫など有機的なモチーフを模して温かみを感じる作品となっていることに、改めてガラスの素材としての魅力を感じます。

私自身も日本画を制作しているのですが、モチーフとして身近な虫を描くことが多く親近感を覚え、また素敵な作品たちに会いに訪れたいと思います。

Art & Design Center West
〒481-8535 愛知県北名古屋市徳重西沼65番地 B棟1階

2025 04 - 2026 02
EXHIBITION SCHEDULE

Art & Design Center East
〒481-8503 愛知県北名古屋市熊之庄古井281番地 6号館1階

	西キャンパス		東キャンパス
4/ 1 日(四) → 4/16 日(日)	デザイン領域レビュー選抜展	4/11 日(金) → 4/23 日(日)	2025年度 芸術教養領域レビュー選抜展
4/18 日(金) → 4/23 日(日)	原画展 / Route508	5/16 日(金) → 5/21 日(日)	跡展(仮)
5/ 9 日(金) → 5/14 日(日)	イラストレーションコース有志グループ展 / 個展-人の心はどこにあるのか- / シルクスクリーンゼミ展	5/23 日(金) → 5/28 日(日)	日日毎日(にちにちまいにち)(仮)
5/16 日(金) → 5/21 日(日)	アーキ博覧会 2025	6/20 日(金) → 6/25 日(日)	プレイヤー
5/23 日(金) → 5/28 日(日)	スギナ日本画展 / @shibasakikoharu-exhibition / CORN2	7/ 4 日(金) → 7/ 9 日(日)	完成しない展示会
5/30 日(金) → 6/10 日(日)	Milano Salone project 2025	7/11 日(金) → 7/16 日(日)	ほんととこどものかく展(仮)
6/13 日(金) → 6/24 日(日)	「愛知県×名古屋芸術大学連携事業 あいちアール・ブリュット作品展(仮)」	7/18 日(金) → 7/23 日(日)	子ども×Well-being×art 展覧会 in summer
6/27 日(金) → 7/ 2 日(日)	プレ卒展	7/25 日(金) → 7/30 日(日)	2025年度 芸術教養領域レビュー1・2合同展
7/ 4 日(金) → 7/ 9 日(日)	2025年度 前期交換留学生作品展 / 版画部展	9/19 日(金) → 9/24 日(日)	自然展(仮)
7/11 日(金) → 7/16 日(日)	CONNEXT 2025 陶ガラス教育機関講評交流展	9/26 日(金) → 10/ 1 日(日)	teytire inspire
7/18 日(金) → 7/23 日(日)	工芸リレー-メタル&ジュエリー「素材展」	10/ 3 日(金) → 10/ 8 日(日)	助手展 2025
7/25 日(金) → 7/30 日(日)	素材展 テキスタイルデザインコース前期制作展	10/10 日(金) → 11/19 日(日)	Art & Design Center 企画展
9/19 日(金) → 9/24 日(日)	SD展(仮) / 大学院同時代表現研究科・岡川中田松岡ゼミ	11/21 日(金) → 11/26 日(日)	子ども×Well-being×art 展覧会
9/26 日(金) → 10/ 1 日(日)	日本画3年コース展 / 大学院 美術研究科 日本画展	11/28 日(金) → 12/ 3 日(日)	安福・山元展
10/ 3 日(金) → 10/ 8 日(日)	助手展 2025	12/ 5 日(金) → 12/10 日(日)	SD展(仮)
10/10 日(金) → 11/19 日(日)	Art & Design Center 企画展	12/12 日(金) → 12/17 日(日)	舞台模型で見るいくつかの物語
11/21 日(金) → 11/26 日(日)	MCDデパートメント	12/19 日(金) → 12/24 日(日)	書道アート展13(仮)
11/28 日(金) → 12/ 3 日(日)	先端メディア表現コース展	1/ 9 日(金) → 1/14 日(日)	留学生別科 作品展
12/ 5 日(金) → 12/10 日(日)	洋画コース2・3年生選抜展覧会(仮)	2/14 日(金) → 2/23 日(日)	メダル展
12/12 日(金) → 12/17 日(日)	書道アート展13(仮) / 2025年度 後期交換留学生作品展		
12/19 日(金) → 12/24 日(日)	工芸展(仮)		
1/ 9 日(金) → 1/14 日(日)	CAP立体造形展(仮) / 2025年度 芸術教養領域レビュー3 / 新博物館		

最新の展覧会スケジュールは
インスタグラムをご覧ください